

2011 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第7戦 ツインリンクもてぎ

□ 11月5日（土） 予選

#33 国本 雄資 Race1:11位/Race2:12位

< 公式予選 > 天候:晴れのち曇り | コース状況:ドライ



念願の最高峰初ポイントを前戦菅生で獲得した国本雄資と Project μ /CERUMO・INGING。初の最高峰でのシーズンを戦って来た国本にとって、初ポイント獲得までの道程は決して平坦なものではなかったが、ようやく歯車が噛み合い課題であった決勝のレースペースも克服した結果、手にした5位・4ポイントはチームと国本に少なからず自信とさらなるモチベーションをもたらすこととなった。しかし、菅生から約1カ月半と長いインターバルを経て迎えたツインリンクもてぎでの第7戦は、早くも今季最終戦。通常とは異なり、タイヤ交換義務のない23周と、タイヤ4輪交換義務のある34周の2レース制が採用された最後の

の一戦を前に「前戦でポイントを獲得出来ましたし、ルーキーイヤーの最終戦を良い形で締めくくれるよう、今回はのびのびと自分の持てる力を出し切りたい」と語る国本とチームは、今シーズンの集大成となる週末に臨んだ。

土曜の午前9時25分から始まったフリー走行は、今回1時間と長めのセッション。前回ややアンダー傾向に苦しめられたこともあり、今回チームはフロントが入るようなセットアップを施してセッション33のFN09を持ち込んだ。

快晴とは行かないまでも、晴れ間が広がるもてぎ上空。セッション開始と同時にユーズドタイヤでコースインした国本は、まずはコースコンディションとマシンのフィーリングチェックを行う。3周をこなし、1分40秒899とした国本は、いったんピットに戻ってマシン各部をチェックしつつ、徐々にセットアップを進めて行く。ユーズドタイヤのままコースに戻った国本は、計測2周目から1分37秒台にペースアップすると、1分37秒201にまでタイムを伸ばして再びピットインする。

持込みのセットアップにまずまずの手応えを感じながらも、さらなるパフォーマンスの向上を狙ってセットアップ修正を行った国本は、午前9時50分に再びコースに戻ると計測3周目に1分37秒049をマーク。ここでピットに戻って少し早めのニュータイヤを履いた国本は、ゆっくりとタイヤを温めると、午前10時07分に1分34秒903へと一気にタイムアップ。それまでは下位に沈んでいた国本だったが、このタイムでポジションも5番手にジャンプアップを果たすことに。

さらにピットイン&アウトを行ってセットアップを進めた国本は、午前10時25分にチェッカーを受け、このセッションを最終的に12番手で終了。ライバル陣営の多くがセッション終盤にニュータイヤを投入しタイムアップしたことから、早い段階でニュータイヤを投入した国本のポジションは下がる結果となったが、国本、そしてProject μ /CERUMO・INGINGは午後の予選に向けて充分な手応えを得てこのセッションを終えた。

日差しが弱り、雲が多くなった午後2時。今回もノックダウン方式の公式予選セッションが始まった。まずは4台が脱落となる20分間のQ1となるが、ここでProject μ /CERUMO・INGINGは国本に2セットのニュータイヤを履かせる戦略を採る。Q2進出を確実にするためはもちろん、2レース制の今大会、Q1の結果が明日のレース1のグリッドとして採用されることとなっていたのだ。

セッション開始と同時にニュータイヤを装着しコースインした国本は、1周目はストレートでウェービングをするなど、ゆっくりとタイヤに熱

を入れて行く。計測1周目を1分43秒235とした国本は、翌周に最初のアタックを敢行し、まずは1分34秒439をマーク、この時点での3番手と好位置につける。

しかし、ここでのマシンバランスがアンダーステアだったことから、この後ピットに戻った国本はセットアップを再調整。2セット目のニュータイヤに履き替えると、セッション終盤のタイミングを計ることに。

満を持して国本がピットを離れたのは午後2時14分。残り6分となったコース上に飛び出して行った国本は、再びニュータイヤを温めていくが、この時点でのポジションは6番手あたりという状況。計測1周目を1分59秒116とゆっくりとしたペースで終えた国本は、さらに翌周を1分41秒609に。アンダーステア傾向も納まり、かなりバランスの改善を感じながら迎えたアタックラップ、やや気合いが空回りしたか、1コーナーでアウトにはらんでしまった国本のタイムは1分34秒334と今ひとつ伸び悩んでしまう。それでも11番手でQ1突破を果たし、国本は続くQ2に駒を進めると同時に、明日のレース1で11番グリッドを得ることとなった。

トップ8にQ3進出が許されるQ2は、午後2時30分から7分間の攻防。さらにセットアップを進め、最後のニュータイヤを装着した国本は、Q3進出を狙ってコースインして行く。

午後2時31分にピットアウトした国本は、Q1と同様に3周目に渾身のアタックをかける。セクター1、セクター2、さらにセクター3と、セクタータイムで自己ベストを更新していく国本の走りに、ピットでは立川祐路監督以下スタッフたちが固唾を呑んでモニターを見つめる。「このまま上手く行けばうまくトップ8に飛び込めそうだ……」と、ピットの誰もがQ3進出に思いを馳せた次の瞬間、90度コーナーで僅かにミスをした国本は、それを挽回しようと最終コーナーに勝負を賭けて攻め込んだが、ここで惜しくも大きく姿勢を見出し、終わってみればタイムは1分34秒463とQ1のベストにも及ばないものに。このため国本は12番手と不完全燃焼の結果となってしまい、Q2突破はならず。明日のレース2を12番グリッドからスタートすることとなってしまった。

予報では天候の悪化が伝えられている明日の決勝だが、ふたつのレースでProject μ/CERUMO・INGINGと国本はどのような戦いを見せるだろうか。最高峰の激戦に加え、抜きどころの少ないもてぎが舞台だけに、11番手、そして12番手からの追い上げに期待が掛かる。



ドライバー／#33 国本 雄資

「ニュータイヤをQ1で2セット、Q2で1セット使ったのですが、クルマのバランス的にはほとんど問題がないというか、Q1でうまくアンダー傾向を把握してQ2にはうまくアジャストできていました。それでセクター3までは自己ベストよりもかなり良いタイムで来ていたのですが、最後の90度と最終コーナーで大きくミスをしてコンマ6秒ほどロスしてしまったんです。コンマ6秒あれば目標にしていたQ3進出も果たせていましたし、クルマも良かっただけに残念でミスが悔やまれます。明日の決勝は11番手、12番手からのスタートとなってしまいました。天候がどうなるかわかりませんが、ここは抜きづらいコースなので、スタートで何台か抜いて行かないとポイント獲得は厳しいと思います。今日の感じからすれば、決勝でのペースはきっと良いはずなので、とにかくスタートに集中して最後まで諦めずに戦います」

監督／立川 祐路

「Q2に関しては、セクター3までは8番手が狙えるタイムで来ていたのですが、セクター4で大きくミスしてしまったようですね。そこだけでコンマ6秒も落としていて、ちょっともったいなかったかなと思います。ただ、国本とクルマのポテンシャル的な面ではQ3に進出出来るだけのものがあつたことは間違いないので、明日の決勝に期待したいですね。決勝の天候が雨になるかもしれませんが、そういう時こそジャンプアップ出来るチャンスですし、明日は短いレースですから、ドライで普通のレースになるよりも荒れる可能性はあると思います。前回も追い上げる良いレースが出来ているので、国本には頑張ってもらって、来年以降に繋げるためにもルーキーイヤーを締めくくる集大成を見せて欲しいですね」